

土木と学校教育の接点について - 学校教育の立場から -

1 問題の所在

- ア 土木のパースペクティブと学校教育のパースペクティブの特質
- イ 両者の関連はどのように整理できるか。接点、関連、交差、提供等
- ウ 関連による効果、有効性はどこに求められるのか

2 授業作りの枠組みと方法

(1) 授業の認知的枠組み

- ・教科 + 学年としての授業
- ・児童生徒の特性や実態
- ・目標、内容、教材、指導方法、学習活動等
- ・授業は何らかの教科等の授業として区分されていること
- ・授業で扱う範囲と程度、内容の順序性を規定しているのは、学習指導要領や教科書であること

(2) 授業の計画

- ・目標と扱うべき内容の検討
- ・素材の収集と教材化
- ・教材の活用方法の検討
- ・指導方法や学習活動の検討

3 様々な研究成果や知見等と学校教育とのかかわり

(1) 教科等の指導内容と関連して教材や体験的な活動としてかかわる場合

- ・防災教育、安全教育、交通教育等
- ・キャリア教育、職業教育

(2) 研究成果や知見等とのかかわり

- ・社会的ジレンマ論の知見の授業への活用について
社会的ジレンマ論の研究の集積と普及 教師による指導内容や教材への利用可能性の検討 利用可能であれば、指導内容のとらえ方に影響を及ぼす
ただ、社会的ジレンマの研究にかかわらず、渋滞や混雑、環境問題等を取り上げた場合、社会的ジレンマに関わる視点は授業に取り込まれているのではない
- ・社会的費用の概念の場合
自動車にかかる私的費用と社会的費用の関係が教科書にも記載
- ・比較生産費説の場合
貿易の成立の説明理論の一つとして教科書に記載
- ・その他：生命倫理、環境倫理、パターンリズム、正義論等の場合

(3) かかわりのタイプ

- ア 指導内容、指導事項そのものとして位置付ける
- イ 教材や学習活動として活用される
- ウ 教師の指導内容の理解を助ける

4 今後の課題

- ア 相互理解の促進、共通の場の確認
- イ 関連の位相の明確化
- ウ 意義と有効性についての検討